

会議録（要旨）

				記録者 清水 径子	
供 覧	部長	課長	課長補佐	係長	係員
件 名	第2回龍ヶ崎市立小中学校適正規模適正配置審議会				
日 時	平成21年10月27日（火）13時30分～15時30分				
場 所	龍ヶ崎市役所 2階 会議室				
主 催 者	龍ヶ崎市立小中学校適正規模適正配置審議会 会長 廣瀬 和喜				
出 席 者	<p>【龍ヶ崎市立小中学校適正規模適正配置審議会委員】</p> <p>廣瀬和喜会長、矢野努志雄委員、杉田美代子委員、塩幡克三委員、宮川崇委員、藤岡久男委員、佐々木孝誠委員、大野金人委員</p> <p>【事務局】（学務課・指導課）</p> <p>油原正教育部長、石島輝夫学務課長、富永保指導課長、川村昭学務課長補佐、落合勝弘学務課係長、海老原弘一学務課係長、清水径子学務課主幹、</p>				
傍聴者の数	1名				
議 題	適正規模について				
資 料	<p>第2回龍ヶ崎市立小中学校適正規模適正配置審議会資料</p> <p>1 ピーク時の学級数との比較</p> <p>2 学級数別学校数の推移</p> <p>その他 児童生徒数及び学級数の推移表（取手市）</p> <p>取手市立小中学校の学級数の推移図</p>				

発言の内容（要旨）

事務局	<p>本日はお忙しい中、お集まりをいただきまして、ありがとうございます。</p> <p>ただいまから、第2回龍ヶ崎市立小中学校適正規模適正配置審議会を始めさせていただきます。</p> <p>会議の進行は、廣瀬会長にお願いしたいと思います。</p>
議長	<p>皆さまこんにちは。第1回審議会には皆さまお忙しい中お集まりいただきまして、ありがとうございました。第1回は無事終了いたしました。第2回目に関しましては今日、これから始めるわけではありますが、皆様のご意見をいただきながら、共に悩み苦しみ、そして新しい方法が生まれればいいなというふうには私は思っております。</p> <p>今日の議題は適正規模に関する問題でありますので、そのことについて忌憚のないご意見をいただき、会議の質が高まるようにご協力をいただきたいと思います。</p> <p>ところで今日は審議会を開催するに当たりまして、会議を傍聴したい旨、申し出がありましたので、傍聴を許可したいと思います。それでは、傍聴される方の入場をお願いします。</p>

傍聴者入場

議長

ありがとうございます。それではただ今から会議を進めさせていただきます。

本日は、委員10名のところ8名の出席でございます。委員数10名の2分の1以上でございますので、会議が成立いたします。なお、会議に入る前に、前回の会議の議事録について確認をさせていただきます。委員の皆様方に前もって議事録をお配りしておりますが、訂正ご意見が無かったようでございますので、会議録についてはお配りしたとおりでよろしいでしょうか。

委員

異議なし

議長

ありがとうございます。それでは今日の会議の終了後に、道口委員と矢野委員に署名をお願いいたします。なお、道口委員は今日お休みですので、後日、署名をいただくことにしたいと思います。

本日の議事録の署名に関しましては、杉田委員、塩幡委員によりしくお願いいたします。

さて、今日の議事に関しましては、適正な規模についての審議を進めたいと思っておりますが、審議を開始する前に、委員から事務局あてに質問が来ているようですので、ご紹介いただきたいと思います。

事務局

B委員から前もってご質問をいただきました。ありがとうございました。資料をお配りし、それについて事務局から説明したいと思います。よろしいですか。

資料配布

事務局

それでは、B委員からあった質問事項を配らせていただきました（質問についてはHP上の「第2回適正規模適正配置審議会質問事項」参照）。質問3に関しまして資料を別紙で作っておりますので、お配りいたしました。

まず、質問1でございます。「学校教育法施行規則第17条及び第55条で学校の標準規模は12学級から18学級を適正な規模としておりますが、市では現在の状況で将来においての適正規模はどのくらいと考えておりますか」という質問です。これについてはこの審議会委員の皆さんからご意見をいただくことでございます。委員には先生方もいらっしゃいますので、学校における適正規模についての考えとか、PTA選出の委員もいらっしゃいますので保護者の思いとか、自分が学校生活をしてきた中でどのくらいの規模が良いのかとか、審議会の中で、さまざまなご意見をいただきまして、答申をいただければと考えておりますので、よろしくご意見をいただきます。

事務局

それから、取手市と牛久市の年度別の学校数と学級数について、取手市の分は資料がございましたので別紙「児童生徒数及び学級数の推移表」をお配りいたしました。牛久市についてはこのような審議会を開催していない状況でして、確認しましたところ資料が無いということでした。

取手市の資料について説明しますと、昭和57年から平成19年までの児童生徒の数、学級数が記載されています。学校数は記載されていないのですが、現在取手市では小学校が18校、中学校が8校となっております。それでは学校数が最大の時どうだったのかと取手に聞いてみましたが、平成17年から（資料の一部が）空欄となっております。これは取手市と藤代町が合併をしたということを表しています。過去に藤代町では高須小学校がございまして、藤代小学校と統合したということですが、取手市と藤代町が合併する前に統合したということで、そのあたりの事情を合わせますと最高で小学校が19校あったということになります。中学校については、昭和52年当時は藤代町にあった山王中学校が藤代中学校に統合されていますが、それを含めると中学校は最大で9校あったということになります。

表を見ていただきたいのですが、カッコ内が学級数で、小学校については昭和57年の392学級が最大、平成17年・18年の212学級が一番少ないということになります。中学校ですが、昭和62年で170学級が最高、最低が平成19年で84学級となっております。

続きまして質問2でございます。「少子化を考えると、小規模校でもいいと考えておりますか。また、学校の統合を考えているならいつごろの時期を予定していますか」という質問です。これについては、前回お配りした資料の44ページから46ページで小規模校のメリット・デメリットを載せております。小規模校について、子どもたち・先生方・保護者それぞれの意見を出していただいておりますので、それを参考にさせていただいて、これも審議会の中でご意見をいただければと思っております。

続きまして質問3でございます。「少子化時代の将来について、地理的状况から小学校と中学校の統合を考えていますか。また、考えているなら計画は何年ぐらいですか」という質問です。これは質問者のB委員に確認したいのですが、小学校と中学校の統合というのは、小学校と中学校を統合するということでしょうか？

B委員

そうです。

ありがとうございます。小学校と中学校の統合というと小中一貫校という考えもございますので、そういう選択肢も出てくると思います。実際、小学校でも空き教室が増えているという状況はございます。が、一貫校ということになりますと、空き教室が増えているということだけではなかなか難しい面もございまして、大改造などが必要になります。市の財政状況も厳しい状況でございますので、新しく一貫校として学校を建てるということは考えにくい状況です。

次に、（質問書の下方の）資料として「ピーク時と現在との比較」などの作成を、とありますが、後ほど説明させていただきます。

一番下の「小中学校の適正規模適正配置の問題につきまして市民の声（パブリックコメント）や学校（PTA）の方々の声を聞く機会を設ける予定はありますか」とのことですが、パブリックコメントについては市で制度化しております。こういった問題は必ずパブリックコメントをとるということになっておりますので、実施していく予定であります。

その時期については、こういった審議会では、審議会の途中にパブリックコメントを入れて市民の方々からいただいた意見を審議会の中に入れ、それを含めてご意見をいただいて答申をいただくやり方と、審議会の後にパブリックコメントを実施しまして、両方を参考に市で計画等を作っていくというやり方がございますが、どちらかという審議会の途中に行ってその声を審議会に反映していただくほうが良いのではないかと考えております。

また、PTAの方々の声を聞く機会を、ということですが、統廃合ということになりますとやはり一番大事なのは地元の声でございますので、そういう機会は大切であると考えておまして、機会を設ける予定でございます。時期については、審議会の途中に入れるのか、答申後、具体的に計画をしていく中で声を聞いていくのか、それは考えていきたいと思っております。ただ、なるべく早く地域の方に状況をお伝えして、ご意見をいただくことが大切であると考えております。

それでは資料として作りました「児童数の最多校と最小校の比較」などについて、川村から説明申し上げます。

B委員からいただきましたご質問にお答えする形で作りました資料が、「第2回龍ヶ崎市立小中学校適正規模適正配置審議会資料」というタイトルでお配りしたものです。まず1ページ目がピーク時の学級数との比較で、基準を学級数で捉えるということで作っております。学校規模の変化の検討、ということでございますので、学級数については普通学級数を記載しております。学校によっては特別支援学級が3学級あるという学校もございまして、比較においては普通学級数、児童数についても普通学級に通っている児童で限定していくことが、比較として一番良いのではないかと思いますので、こういった形で作成いたしました。

学級数のピーク時でございますが、小学校は平成8年度で学級数175、学校数は12、児童数は5,550、この5,550を12で割ったものが1校あたりの平均となりますが、児童数は463となります。この平成8年の最大規模の学校は、馴柴小学校でございます。普通学級数は25、普通学級に通う児童の数は799となっております。その右側、逆に再小規模校は長戸小学校、普通学級数は6ですので、全学年単学級ということになります。普通学級に通う児童の数は144となっております。そして現在21年度、学級数は160、学校数は13、児童数は4,765、1校あたりの児童数は367。最大規模校は八原小学校の26学級・904名、最小規模校については長戸小学校、6学級で91名となっております。

次に中学校でございます。学級数のピーク時は平成11年度、学級数は85、学校数は今と変わりません、6校、生徒数は3,034で1校あたりの生徒数は506です。最大規模校は長山中で17学級、生徒数は599。最小規模校は城ノ内中で学級数が11、生徒数が371です。現状ですが、学級数が69、学校数は6、生徒数は2,402、1校あたり400名、城ノ内中が最大規模校となっておりまして、学級数が17です。11年度においては城ノ内中はまだこれから増え始めるということで最小となっておりますが、現状では最大です。現在の最小規模校は城南中で、学級数が8、生徒数が265となっております。

次に、2ページ目をお開きください。学級数別学校数の推移でございます。これも学校規模の検討のため、普通学級数とさせていただきます。区分は平成元年度から5年ごとに、元年・6年・11年・16年そして現在21年となっております。学級数は19学級以上・18～12学級・11～7学級・6学級としております。小学校におきましては徐々に学級数が減ってきており、中学校におきまして、平成11年度には18～12学級が5校、11～7学級が1校でしたが、10年後には18～12学級が3校、11～7学級が3校となっております。

大変詳細な資料をお作りいただき、ありがとうございました。このことについては委員の皆さまからご意見をいただくわけですが、まず最初に質問をいたしましたB委員から、この内容についての補足説明を求める場合、または新たな疑問点等がございましたら、B委員から質問をいただいて、それから全体の質問に入らせていただきたいと思いますので、B委員、お願いします。

議長

質問に答えていただきましてありがとうございました。実は私も前に東京都内の教育委員会にいたので、先に質問を提出させていただきました。質問2と質問3については、たぶん（審議会の中で）出てこないだろうと思っておりました。というのは、今審議会をしていますので、その中でいろいろと委員さんの意見を反映して決めるというのが一番理想的なわけで、そういう形でできるのが一番良いということですが、できれば、市で適正規模について「こういう考えを持っている」といったようなことを出していただければと思って、質問の2と3を出させていただきました。

私が一番欲しかったのは、この資料（児童生徒数の推移）なんです。やはりほかの自治体と同じように減少していますね。ただその減少率がどの程度かが問題なんです。さきほどの取手の資料では、すごい減少ですね。合併する前に昭和57年がピークで、それからどんどんどんどん減ってますよね。その減り方がすごい減り方なんです。それを考えると、龍ヶ崎市も同じような傾向ではないかという気がするんです。

私は20年位前、足立区に住んでいました。足立区では昭和61年にこの適正配置適正規模の答申を出しました。ただ、その答申を出したときにはそんなに人口は減っていなかったんです。足立区は今23区で（人口数が上から）世田谷・大田に次いで3番目ですが、その当時はそれほどではなかったので、適正規模適正配置については国が決めた12学級から18学級にしくても良いというかたちの答申を出したのです。その後に人口ががたっと減りまして、平成7年にもう一度審議会で答申を出しました。平成7年のときに20年スパンで答申を出したんですけど、それも人口ががたっと減って学級数も減り学校も廃校にするところが出てきた。それでは駄目だということで、昨年、25年スパンのガイドラインを作ったんです。それで25年経っても大丈夫だという形のものを作って、スタートしたという経緯があります。

足立区は小中一貫校をもうやっています。2箇所くらいあるのかな。うまくいっているという話しも聞いています。ただ、その中身はたぶん都市部だからうまくいってるんだというふうに思います。龍ヶ崎に関しては、それだけの学校とか生徒数がいませんからどういうふうになるか分かりませんが、とりあえず成功しているところはありますので、そういうところも参考にいただければと思います。

学級数も調べていただきましたが、半数以上の学校で減少傾向ですね。12～18学級の小学校がいくつかあります。ということは、たぶん10年～20年ぐらい先の人口減を見込んで、12～18学級ではなくて、もう少し減らした学級数で考えてもいいのかなという感じはするんです。それと同時に、小学校なら小学校だけを統廃合するということも考えていったほうが良いのではないかという感じがしました。

大変ありがとうございました。事前にこうした質問をいただいておりますと、事務局のほうでも整理しやすいですし、検討する内容も具体的になりますので、大変ありがたいことだと、B委員にはお礼申し上げます。また、かつて足立区にお住まいだったということですし、教育委員会におられての経験もございませうから、そういう点を本市でも生かしていただけますように、委員としてのご協力ご支援を賜りたいと思っております。どうぞよろしく願いいたします。

いまB委員のお話でもありましたように、質問に対する回答を事務局からいただいたわけですが、最終的には審議会の中でこういう問題を反映したらどうだろうかということがB委員の狙いがございますので、いまここで結論をどうこうするわけではなくて、審議会の進行の中でこういう問題を検討し、答申の中に生かせるような方向で進めていきたいと議長としては考えております。

最後にもありましたが、こういう問題については、市民の声・パブリックコメントを聞かないとなかなか進めて行けないのが実態です。パブリックコメントは事務局から制度化されているという話もありまして、ありがたいことだと思っております。また、PTAの方々のご意見につきましても、審議会の合間でどうするかについても事務局と相談いたしまして、今後の計画を立てられるなら立ててみたいと考えていますので、どうぞよろしく願いいたします。

B委員の質問につきましては、B委員、よろしいですか。それでは、これらの質問に関しまして、委員の皆さまから再質問がありましたらどうぞ。（発言なし）では、B委員の質問とそれに対する事務局の回答につきましては、これでよろしいですか。

それでは、適正規模についての新しい意見等をそれぞれの方からご発言いただきたいと思っております。どなたか、適正規模についての発言を求めますので、ありましたらお願いします。

- なかなか難しいことなんですよ。おいそれと発言できないところもあるうかと思っておりますので、では、先生方もおいでになっておりますので、ご意見を伺うことにいたしたいと思っております。では、F委員お願いします。

F 委員

はい。適正規模ということについて、12学級からということで学校教育法の施行規則では出ているんですが、小規模校は小規模校なりの良さがあるし、メリットもデメリットももちろんあると感じております。メリットを言えば、子どものことを詳しく分かる。生活のことも家庭のことも含めてよく分かるので、きめ細かな指導ができる。具体的に「この子にはこんなことをすればきょうなってくれるだろうな」と、学校としてはいろいろな教材を与えることができる。そういうことではすごくいいのかなと感じております。

デメリットについては、資料にも挙げられているのはクラス替えができないのでどうしても友達関係が固定化したりとか、人間関係がまずくなった場合に避難するということができなくなってしまう。ということは子どもたちにとっては、意外とぎくしゃくしないように普段から生活しなくてはならないのかなと感じております。学習面では、生徒の数が少なければみんなの考えのいいところを出し合って、多様な考えを生かしていくということがなかなかできないのかなと思っております。

メリットもあってデメリットもあって、どこを取ったら良いのかなというのは自分でも悩むところですし、規模ということでは12学級だと小学校でもクラス替えできますので、そのぐらいあるといいのかなという気はしています。

議長

ありがとうございました。私のほうで一つ一つご発言の整理をして皆さんにお返しするというようなことは極力控えまして、要点だけを申し上げることにしたいと思います。

メリット・デメリットそれぞれあると、生活上のことや友人関係の問題でそれぞれの立場のお考えがあると思いますが、きめ細かな指導ができるだろうということ、もう一点は学習上の問題でもメリット・デメリットが出されました。F委員のご発言に対しまして、何かご質問等ございませんか。

B 委員

学級を持ったときに、一番多い人数は何人ですか。

F 委員

新採の頃ですね。昭和54年ごろですか。47人ぐらいいました。

B 委員

そのときと今と比べるとどうですか。教え方とか。

F 委員

今は学級管理をしていないんですけど、教え方に関してはやはり（違い）ありますよね。情報教育とか、前はそういう教育機器とかパソコンとかそれに付随したものが無かったので、そういうものを効果的に使ったり映像をうまく使ったり、そういうことが現在いっぱい入ってきている。そう思っております。

議長

B委員、よろしいですか。その他の委員の皆さんも、どうぞ自由にご発言いただけますがよろしいですか。

ひとつの指針として12学級ということが、クラス替えができるようにという指針があるようですが、必ずしもそれでこだわらないで、また、この会議は統廃合ありきということをお話するんじゃないで、それぞれの現状に沿った形で本市として子どもの教育上、人材の育成の上でどうするのか、という視点などをポイントにしながらかご発言いただきたいなと思いますので、ご自由にご発言いただきたいと思います。

それでは、ひととおりお聞きした上でまた皆さんのご意見をいただくことにしたいと思いますので、それでは続きまして……G委員、いかがでしょうか。

G委員

私は2年前までは小規模校にいて今は龍ヶ崎で一番大きい小学校にいますが、小学校の経験が多いのでその経験から言いますと、小規模校の良さというのは、教師サイドで言うと全員の子ども、1年生から6年生までの全員の子どもの名前と顔が一致するということ。それから保護者の方も「これは誰のお母さん」「これは誰のお父さん」ということも割と把握しやすく、保護者の方にも自分の顔を覚えていただきやすく、気軽に声をかけていただけるという感じがして、信頼関係が築きやすいという気がしました。

ただ、小規模校だと子どもたちは「関わりの中で学ぶ」ということについて、大規模校の子どもたちからすると、そういう機会が若干少なくなってくるかなと思います。例えば小規模校の小学校から中学校に行った場合たくさんの混じりあいがあるわけですが、そのときに関わり合いにちょっと問題がある子もいるかなという思いがあります。

先生方についても、関わりの中で学ぶということはとても多くあると思います。なので、小規模校だと先生方同士の学びあいも、ちょっと不足するかなというような感じがいたしました。たとえば若い教師を育てるという面からすると、たくさんの中で磨きあい・もまれ合いしたほうが、教師としての学びあいの姿勢があると感じました。私の経験からいうと、適正規模というか人数なんですけど、できれば小学校は1学年30人の3学級でどの学年もあると、子どもたちも先生方も学びあいの中からの育ちがあるのではないかなというような考えが、今は強くあります。

議長

ありがとうございました。先ほどはF委員から「きめ細かな指導ができる」という話があったり、学習上の問題ではみんなで考えを出し合っというということについてなかなか難しい点もあるという話もありました。G委員からは子どもの名前と顔、これは僕ら教師として今までやってきたことからすると、顔が分かり保護者が分かり、子どもの顔が一人ひとりイメージされるということはとても大事なことだろうと思っておりますし、そういう中で指導ができる小規模校の良さというものは今お話しがあったとおりでと思います。また、信頼関係を作るという上でも良いという事はなるほどなと思えます。ただひとつ今出てきたことは「関わり」の問題ということで、新たな視点が出されました。人間関係の中で人は成長する、関わりの中で成長するというのは全世界の理想的な人間作りでありますから、関わりの中で人間は成長するということからすれば、小規模校のデメリットということも多少あるのかなということですね。適正規模に関しましては具体的に30人の3学級ということが出されましたが、これは委員の今までの経験の中で出されていることですから、これをそのまま答申の方で生かしていくという訳にはまだいかならないと思えますが、先生の経験の中で発言いただいたこと、大変ありがとうございました。

このように、F委員もG委員もそれぞれの思いを伝えていただいて、ありがとうございました。何かお二人に今の発言の中でももう少し詳しく質問してみたい何か分かってほしいということがありましたら、お願いします。

E委員いかがですか、今のお二人のお話の中でなるほどと思うことがあったり、これはどうかと思ったり、E委員自身のお考えもあろうかと思えますがいかがでしょう。

E委員

私は小学校が龍ヶ崎小学校だったものですから、1学年最低5クラスありました。中学校も、城南中で私の学年は5クラスありました。城南中は長戸小・大宮小の人も城南中に来るわけで、当時から長戸・大宮は1クラスで少なかったんですけども、自分の感覚として5クラスあると、同級生の顔が全員は分からないというのがありました。今PTAをやっている「中学校のとき同じ学年だったよね」なんてお母さんから言われても、名前を聞いても分からないですね。旧姓を聞くと「ああそうかな」という感じはあるんですけど、そういう状況ですので、5クラスは多いなと思えます。ただ、運動会をやっても何か公演をやるにしても、1クラスでは活気が無いと思えます。

中学校は部活動とかがありますから、今私の子どもが城南中にいるんですけども、城南中は昔規模が大きかったもんで部もたくさんあったのです。後からできた中学校と違って、城南中では部活が14とか15あるんです。だから生徒数が減った今、部員が各部に散らばってしまって、柔道部なんかでは部員が2人しかいない。団体戦に出られないんですね。団体競技では力の論理じゃないですけども数が多いほうが強い、というのが当然出てきたりして、部活動は勝ち負けじゃないと思いますけれども、そういう成績も悪い。だから、中学校については子どもたちももう大人になりつつありますので、4クラスぐらいにしたほうが活気があっていいのかなと思いますね。

議長

ありがとうございました。C委員さん、いかがですか。

C委員

私は地域の代表ということで、長い間区長をやっていました。今年で16年目になりますが、私(の住まい)は川原代地区で、いま市の行政の立場から去年・おとしと2年間かけてワーキンググループの中で、公民館中心で各地域の代表を4~5人ぐらい選出して人数が40名前後でいろいろ検討して、その結果を先週社会福祉課と社会福祉協議会に(出しました)。公民館中心ということは小学校単位でいろいろやっているということだそうですが、問題になるのは、私のような年寄りの立場から見れば少子高齢化が大きく進んでいるということです。年寄りが増えて子どもが地域内に少ない、地元の方といわゆる途中から入ってきた住宅の新しい方との顔が見えない、これが一番問題ですね。

子どもの数が多いと学校の中でも子どもたち同士もよく分からない、親たちもよく分からない、隣に住んでいる方の顔が見えない。ということは、年寄りの方は地元の方で、新しい住宅の方は若い方で昼間はほとんどいない。子どもの数は少ない。ですからお互いに顔が見えない、結局は、知らない方が隣に住んでいるけれど、いざ何か起きた場合にどうしたら良いのかということが、この間の会合でも一番の問題でしたね。事件とか事故とか災害とか、そういうことを考えると、龍ヶ崎のこれからの人口の推定は果たしてどんな形になっていくのか。理想的な学級数や子どもの数も、人口の推移というのが、一番肝心なことかと思っています。龍ヶ崎が今10万人を目標にしているという話も聞いております。ここ2~3年ほとんど横ばいの形で人口8万人のところを行ったりきたりしている状況ですが、将来、子どもの数の推移を見た中で、慎重に審議をしていかなければならないと思います。

議長

区長さんとしての、また長い間地元生きてきた人の思いというものも大変大事なことでありますので、その点は率直にご意見いただいてありがとうございました。今C委員の話にもありましたように、最終的には人口動態に、学級規模や配置の問題も行き着くのかなというような話が出ました。ありがとうございました。続きましてA委員さんから、何かありましたらお願いいたします。

A 委員

私は大宮地区の出で、小学校のころから2クラスで昔から小規模でした。現在は大宮小は1クラスですが、自分には2人子どもがいて、上の子のときは2クラスでした。その後、下の子のときは1クラスになっていたの、そういう移行を経験できたということになります。クラス数が減ると、やはり学校行事でも運動会とか支障があるし、登下校のときに地域に子どもが少なくなってしまっている、と問題点がかなり出ましたね。

ただ、少なければ少ないで地域の人と協力し合って、たとえば運動会なんか合同運動会、地域の運動会と小学校の運動会を合同にして地域の方の交流ということをお前提に開催して、今年で4年目になります。そういうこともやってきたということはいいことかなと思ってます。

理想は、私が経験したように最低でも2クラスか3クラスはあったほうがいいと思いますが、ただ、1クラスだけでも、20～30人前後いればそれはそれでやっていけるのかなと思います。その数が1クラスとしてぎりぎりのところだと思います。例えば前回見た長戸小なんかでは、1クラス10人前後になります。そうするといろいろなバランスも崩れてしまうだろうし、子どもたちがかわいそうかなと思います。私は統廃合に関しましては、できれば学校を地域に残してあげたいというのが、小学校も人数がぎりぎりのところまで残せば残してあげたいと、というのが私の考えです。本当に長戸小みたいに全校で50人になったら逆にかわいそうなので、そういう時はやはり統合ということをお考えなければならぬと思っています。だから12～18学級という適正規模をお前提というよりも、残せるなら残したいというふうには私は考えています。

議長

やはり地域に生き地域に育ち、そして今お子さんをお持ちの委員のお話であります、誠にそうかなという感じを持ちます。理想の学級というのはあるかもしれないけれども、できるものならば残していいものを生かしていったらどうだろうかというご意見、どうもありがとうございました。具体的には長戸小学校の現状等についても触れられたわけですが、これも、残せるものなら残したらと、それもぎりぎりのところでお話もありましたので、今後の検討課題かなという気がいたします。少人数のために集団の演技だと学校等ができない運動会の問題も出てきました。こういうような小規模校・大規模校のさまざまな問題をいまご意見いただきましたけれども、先生方としまして総括ではありませんが、校長先生としてのお考えをH委員、お聞かせいただけたらと思います。一委員として、校長先生としてということをお考えなくても結構ですので、ご自由にどうぞ。

自分の経験の中から、ちょっと話させていただきます。私も30有余年教員をやってますから、大きい学校は2,000人、一番少ない学校は130人ちょっとの単学級も経験したし、いろいろありました。振り返ると龍小に2,000人いたときには、運動会など子どもが多すぎて流れ作業のようでした。龍ヶ崎小2,000人から龍ヶ崎西小が分離したとき、3学級の600人ちょっとだったんですけども、分離したからこそその活気がありました。西小ができたときに科学研究その他、学習とか規模的な充実がありました。先生方も充実していました。

あとは児童数が600人だったときは管理職としては別な地域であったんですが、規模からすると活力があった。それから単学級の学校は私も校長が今の学校で4校目なんだけれども、東とか新利根とか稲敷もそうですけどね、河内も単学級でしたが、学校は地域性がありますから、龍ヶ崎では適正規模の話が出てきましたが、稲敷のほうはほとんど単学級です。もう切実な問題なんです。

校長という立場で見たときには、単学級には単学級の良さがありまして、子どもたちと親交を、私らから入っても顔ももちろん分かるしね。そういう良さ。あるいは地域性もあります。川原代などの、そちらに区長さんもいますけれどもね、だいたい子どもの顔を覚えられました。ただ学力ということを考えてときに、確かに単学級よりはクラスが2つ3つあったほうがいい。馴馬台小は各学年2学級の学校ですけども、授業参観や学習状況などから考えると、2学級3学級あったほうが刺激合う部分はある。たださっき言ったように単学級の良さもありますから、子どもたち同士がみんな仲良くなって心は育つ部分は十分にあります。

もう一つは事例の一つとして、実は私が最初に担任した学校が単学級で、東文間小学校でした。この学校は現在廃校され、なくなってしまいました。先日、用事のついでに東文間小学校を見たのですが、草木が茂っており見る影もありませんでした。これを、卒業した子どもたちや地域の人たちがここを通ると、寂しいと思うのではないのでしょうか。私も新採から5年もいた学校がなくなり、寂しくもあり複雑な気持ちがあるのも確かでした。

今後この適正規模に関しては、(6学年で)18学級、ぐらいがいい、30×3で90人、90人×6学年で540人ですか、そのぐらいの規模っていうのが、総合的な部分では理想的な学校規模だという感じはしますね。

議長

ありがとうございました。学校がなくなったという思いのある先生の、東文間小学校の思いを今お聞きしまして、正直言いまして本当にわが母校、育った学校がなくなるという思いは地域の方にとっては大変残念なことだろうなあという感じは持ちますね。それだけに反面、学力のことを考えると単学級の持つ弱さというか、問題点というか、そんなことも感じられますし、これから子どもたちが生きていくうえで単学級がいいのか複数の学級がいいのか、そのことについて一概に先生方がこうだと言い切れないというのは、経験の中でやはり出されている課題であろうと思います。ですから、この問題を一朝一夕に「理想の学級は12学級だ」とか「18学級だ」とかまたは「9学級だ」とかというような形で取り決めを、ここで今すぐというようなことはとてもできる問題ではございませんので、問題点を提起しながら理想の学級はこうなのかなあということまで行ければ良いと、現状の取り決めで終わってしまうかもしれませんが、そういう意味では答申までの間に、今出された問題の苦渋の選択と言いましょうか、そういう問題も含めて、皆様のご意見をいただければと思います。F委員、再度、今皆様のご意見いただいてあらためて感じたところというか、先ほど抜けたところもあるかと思しますので、そういう点をお聞かせください。

F委員

私たちはどちらかという教育の現場サイドでメリットやデメリットを話しました。別の委員の方は地域の立場から歴史的な背景とか、生活点とか、近所づきあいとか、そういう目から見たら地域の人から見たらこうなんじゃないか、というご意見だったと思いますけれども、ではあと何が足りないのかなと思ったら、子どものためというか、子どもの立場から見たらどうなんだろうというか、そういう点で見たら実際どうなのか。そう感じながら、皆さんの議論を聞いていました。そういうことも、うまくすり合うかどうか分かりませんが、どこかですり合わせはしていかないと、形は見えてこないのかなと思います。

議長

話し合いってというのは良いですねえ。やっぱり抜けてるところが見つかるんですね、先ほど来の問題を、子どもの視点でどう見るかということが抜けていたような気がしたところを、補足していただきました。子どもたちにとっては、適正規模・単学級、多くの学級になるのかどうか、大規模校がいいのかどうかということを、考えてみたらどうかというような視点をいただきました、ありがとうございました。このことにつきましては、皆さんからご意見をいただきたいと思しますので、2回目の発言を、先ほど抜けた点ということでF委員は「子どもの立場から」ということでお話を出されていまして、G委員、2回目の発言をお願いいたします。

G 委員	<p>今F 委員から出た「子どもの立場からするとどうなのか」というのは、子どもに聞いてみないと分からないことなんだけれども、私も北文間にいたとき北文間は小規模校だったので、市内の小規模校4校での触れ合う機会を指導課で設けていただきまして、北文間・長戸・川原代・大宮の4校の子どもたち、特に4年生と5年生を中心に触れ合う機会があったんです。交流をしたときに、今までの子どもでは見られなかったすごく楽しげな雰囲気とか、割と学校の中では友だち関係とか自分の位置が固定化されているんですけども、そういったほかの学校との交流の中で、友だち関係を自分から広げて行こうという働き・動きの中で、すごく生き生きと、今まででは見られなかったような子どもたちの動きがあって、交流の機会を持てたことはすごく良かったなと思ったんです。なかなか適正規模の話には結びつかないかもしれないんですが、やはり限られた「これだけしか子どもがいない」という中から、ちょっと関係が広がったときに、今までには見られない生き生きとした姿。お友だちの中で固定化された自分じゃない、新たな自分を、子どもたちも発見できた喜びというか、そういうのもそのときには感じることができました。</p>
議長	<p>なるほどねえ。新たな子どもの発見ね、なるほど。H 委員、今までのお二人の意見を聞いてですね、先ほどのご説明の中で足りない部分もあったかもしれませんが、何かお気づきの点ありましたら、お願いします。</p>
H 委員	<p>子どもの活動の部分からすると確かに私も小規模校の川原代にいたとき、4つの学校の活動をできるだけ、私も顔を出したりして、これは本当にいい企画だなと思って見させてもらいましたね。今年もたぶん交流会をやってるでしょうね。ああいう活動はだから今後も是非と思いますね。</p>
議長	<p>小規模校は小規模校なりの企画をすることによって、子どもも固定化された関わりから、別の関わりを体験することができる。</p>
H 委員	<p>プラス大きな集団というね、関わりとか。</p>
議長	<p>なるほど、なるほど。</p>
H 委員	<p>たぶんみんな子どもたちの感想その他は「良かった」と。</p>
議長	<p>いま三人の補足説明というか、ご意見等いただいたのですが、そのことについてだけじゃなくて、先ほどお話できなかったこと、お気づきの点がありましたら、B 委員、指名して、たくさんの資料を出していただいているのに誠に恐縮ですが、お考えをどうぞお願いいたします。</p>

B 委員

G 委員に聞くんですけども。若い教師を育てるには、やはり小規模じゃなくて教師がたくさんいたほうが育てやすいと、いうお話があったんですが。私は逆じゃないかと思うんです。たくさん教師がいると、誰に聞いたらいいのかとか、一人の教師に聞いたらこういう答え、もう一人の教師に聞いたら反対の答えが出てくると、いうことがありませんかね。そういうのがあるから、教師を育てるなら、できれば1対1が理想だと思うんですけどもそれは無理ですから、1対5とか1対10とかね小規模の学校で育てたほうが、伸び伸びとその先生が上に行くのではないかという気がするんですが。

議長

G 委員、どうぞ、ここで結論出すわけじゃありませんから、ここでお話いただいて結構です。B 委員の思いをね、どうでしょうか、ご自由にどうぞ。

G 委員

私は先生を育てる立場にいるわけなんですけれども、例えば日常的にいろんなトラブルとか、起きてるわけなんです。昨日も実は数件トラブルが起こったんです。3年生の教室だったんですが、私の今までの経験からアドバイスはしたんですが、その先生は1年生の先生だったので、1年生は今5クラスあるんですね。今の1年生の親の考え方っていうものは、ひょっとしたら私の考え方とちょっとずれてるのかもしれないと思って、学年主任にも「私はこう思うんだけどもどうだろうか、先生からもぜひアドバイスして欲しい」ということと言ったところ、学年主任の先生からとても的確なアドバイスをいただけたんですね。それはやはりその学年の保護者の実態を知っている仲間が、何人もいるわけです。そうするとその中でアドバイスをもらえるということがあって、私だけがアドバイスせずに私からさらに学年主任の先生にアドバイスを求めて良かったなと思う点がありまして、やはり単学級だとそういう点が難しいです。

小学校6年間に、親も子どもと一緒に成長していくわけなんです。1年生に上がった保護者は「まだ1年生」であり、6年生になって卒業させた親は小学校での6年間の経験が蓄積された親であり、ということなので、その子どもの発達段階と同じように親も経験を積んでいくわけなので、例えば3年生の先生が悩んでいたときに、私のような立場からのアドバイスだけでなく、その学年を持つほかのクラスの先生からのアドバイスなどがあると、すごく役立つんです。そういう面で、学年がチームになっていたほうが、私は先生が育っていくなという感じがとてもしています。

議長

B 委員、いかがですか。これはB 委員のおっしゃるように、マンツーマンでご指導いただく方法もあるだろうし、G 委員の言うように多くの先生方からいろんな経験の中で学んだことを助言していただくこともあるだろうし、一概には言い切れないだろうと思いますが、広がりのある発言をいただきましたことを嬉しく思っています。ありがとうございました。何事もそういう形でできるだけ発展できるような内容に、していきたいと思しますので、どんな小さなことでも結構ですので、お願いいたします。E 委員は、今までのお話をお聞きして、新たな視点でご発言はございませんか。

E 委員

子どもの意見というのも当然重要だということは、第1回の教育長の挨拶にもありましたので、それは基礎・基盤だと思うんですけどもね。

龍ヶ崎市は、このままいけば子どもは減って、大規模とか小規模とか言う場合ではないような感じもするんです。だから「規模をどうする」というよりも「いつを目途にそのときから向こう10年とか何十年、をベースにこの程度の規模」というふうに定めないと、今なら今のままでいいと思うんです。今から10年前には児童生徒は8,000名ぐらいいた、表を見ると10年後は6,000ぐらいになります。ということは、みんな小規模校になるのではないかと思います。いま城ノ内や白羽が多いのですが、10年後はきっと減っている。だから、いつごろを目途にしてどのくらいの規模で、期間で、どの程度の、クラスというか学校というか、という目安が無いと、一人ひとり委員さんで、5年後を考えてる人もいれば20年後を考えている人もいたのでは、意見は一致しない。そう思います。

それから「先生が育つ」という話は、両方経験していただいて、大規模校行って小規模校行って、育ってもらえれば良いかなと思います。

議長

今のお話、先ほどC委員もおっしゃっていましたが、本市がどのくらいの人口増になるのか、人口の増減に視点を当てないでは理想的な小中学校の問題の解決にならないのではないかという意見があって、いま細かいところの話し合いの中でそういう問題に戻りまして、E委員からは今の問題ではなくて、5年先10年先いやもっと先の人口動態を勘案しながら答申に持っていくべきじゃないかと、そういうことですね。そういうご意見だったと思いますので、このことも含めまして、A委員、いかがですか。

A 委員

統計があればそれに越したことはないと思いますが、人口（児童生徒数）が減少していくということは大前提になっているわけです。

子どもたちが実際少なくなっていく中で、子どもにとってはやはり少ないより多いほうがいいと、私は思います。先ほど、地域の子どもという話が出ましたが、またH委員が「学校がなくなって寂しい」という思いをしたという話もありましたが、卒業された児童たちは寂しい思いはするかと思います。でも、新しく通う児童にとっては、もしかしたら、地元の小学校にそれほど思い入れというものが無いのかなと思います。実際に通った学校が自分の大好きな小学校中学校になっていくのではないかと思います。

議長

実はそういう問題も、私個人的には、子どもの問題について言うと、年配の方々やそこを卒業した方ですと、母校への愛着だとか愛校心だとか強いけれども、これから小学校に入る子どもたちにとっては新しい学校が全てですから、あまりこだわりもなくなるのかなという思いもあり、いろいろな方向からのご意見をいただいて本当にありがとうございます。

こうして皆さんのご意見をいただきますと、子どもが目指す答申の細かい内容が一つ一つ明らかになるというか、見えてくるような気がいたしまして、本当に嬉しく思います。C委員いかがですか、区長さんとしての長い経験で言えば、人口の問題もありましたけれど、今のお話伺いながら何か感ずるところがありましたらどうぞ。

C委員

皆さんのお話を聞きますと、統廃合を含めて、やはり市の協力ということを考える必要があると思います。今度「教育の日」という教育委員会主催の行事が11月5日に文化会館であります。この間私も区長たちが集まったときに「この機会にできるだけみんなで参加して、龍ヶ崎の教育について話を聞いてこよう」ということで、地元の古い区長などは大いに関心持ってます。

それと学校の問題も、地域の方というのは自分の地域の学校というのが大切です。これは年齢問わず地元の学校というのが一番愛着があるに決まってるわけなんですけど、そのままでいつまでも統廃合の話を進めるのは難しいと思うので、その辺の見極めはいつの時期が良いのかと考えております。だから「教育の日」にはなるべく大勢の区長たちで大会に参加して、お話を聞いたら、これからの教育の問題の参考になると区長同士の話になってます。

議長

それは良かったですね。

一通り適正規模の基本的な、ただいま持っている課題、それから方向性につきましてご意見をいただきました。なかなか適正規模というのは小規模であろうと大規模であろうと適性であろうとそれぞれの経験の中でいろいろな考え方が生まれてくるのだらうと思いますので、この取りまとめにつきましてはなかなか難しいという気がしております。それにしましても適正規模というのは、子どもの教育の上で教育環境とか設備とかいろいろあるだらうと思いますが、どの程度のものが最も理想的なものかというような考え方は、それぞれお持ちであらうと思います。

議長

そこで、時間も迫って参りましたので、それぞれのご意見、適正規模に関するそれぞれの考え方を、もしお持ちでありましたらお願いいたしたい。「私は経験の上で」とか「考え方」とか「こういうことで子どもの教育の上でこれくらいがいいのでは」というお考えがあればお話しいただきたいし、「そういうことはとても難しくてダメだよ。人口の状況を見なければとてもとても意見は出せませんよ」という人もあるうかと思いますが、そういう点でいかがでしょうか。今日は適正規模というテーマでありますので、適正規模ということに、結論ではありませんよ、私はこう考えるとかそういうようなことであればお話しただければと思いますけれど。あくまでも方向付けでなくて、私は、ということで。このことについて、事務局のほうで何かございますか。私たちに對する発言というか、まったくのフリートークングでよろしいですか。

事務局

適正規模と適正配置について、答申をいただきたいと思っております、まず適正な規模について話し合っていたいでますので、次回あたりには適正規模について審議会としてのものを決めていただいて、その後適正配置について審議いただきたいと事務局では考えています。ただ、適正規模と適正配置には関連がございますので、適正規模というものだけ切り離して答えが出なければ当然結論出ないわけですから、その辺はお任せします。

議長

規模だけの問題、配置の問題も含めていろいろ出てくる。これはそれぞれ相関関係があるんだろうと思いますので、ご意見をいただきたいと思いますが、今日のテーマそのものは適正規模ですから、ある程度「規模としてはこれくらい」「少なくともこれくらいの児童数は欲しい」というようなことで、先ほどG委員のほうから「1学級が30人で1学年3学級が理想的」という意見が出ました。これはあくまでも意見でありますから、今後そういう問題について次回もう少し具体的なお話を伺うことにいたしたいと思っております。今日はあくまでも参考ということで戻りまして、F委員のほうから「これくらいはどうだ」と、小学校中学校というよりも小学校かな、まず。

F委員

先ほどG委員から北文間小学校のことで、「他の学校と一緒に活動した」という話があったんですが、きっと、単学級だからそうしたんだろうと。特に市のほうで、そういうふうにしたほうが交流があって、教育的に効果があるという方策が出されたんだろうと。では逆に言ったら単学級じゃなければ、3クラスもあればね、学校の中だけで交流ということの教育的な効果はある程度上げることができると思いますので、少なくとも2クラスは欲しいかなと思います。それは教育的効果を考えて、効率性とか。学校間交流を行う場合、ほかの学校と連絡調整とかすごく時間がかかるわけですね、相手がいるわけですから。そういうことを考えてみると、自分の学校だけである程度解決できる、準備ができる、そのほうが効率性とか機能性とかが勝るのかなと思います。

議長

なるほどね。G委員、再度どうぞ。

G委員

自分の経験では、できれば3学級あったほうが。自分もいろんな規模の学校に務めたことがあり、それくらいのほうが先生方も計画も練りやすい、動きも取れる、いろんなアイデアが出される、先生方も生き生きとしてくる、子どもたちの中にも動きが出てくる。例えば単学級であると、一度人間関係が固まってしまうと子どもたちの力で変えていくという作業がとても難しく、最低2学級あればクラス替えができる、マイナスの面での子どもたちの固定化された人間関係もクラス替えによって変えることができる。そうすると、子どもたちも生き生きと活動できる面が出てくると思っています。

先生方の観点からとか、先生方の育ちの面とか、そういうことからすると、3学級が理想的だと思います。ただ、いま私がそれ以上のクラス数の大規模校にいますので、またこれも、何かある度に動きがとれなくなってしまうことがあります。例えば、今は集団下校を実施しているんですけども、1年生から6年生までの集団下校の曜日が週に1回ありますが、並ぶだけですごく時間がかかるんですよ。保護者の方々にアンケート調査なんかをすると、保護者の方々も心配していることが、運動場が児童数からすると面積がちょっと少ないんじゃないかと、子どもたちの運動量はどうなんだろうかというようなご心配も寄せられるとか。とにかく何か一つ全校で行動を起こそうとすると、それだけでかなりの時間がかかりますね。今の規模での良さはあるんですが、大きすぎるという点での問題点もあります。

議長

なるほど。再度申し上げますが、結論ではございませんで、いまある考え方をを出していただければ結構でございますので、H委員、どうぞ。

H委員

私の経験から言わせていただきますと、2学級より3学級が、学年刺激とか子どもたちにもいい教育環境のように思います。経営側から担任側からも3学級×6学年の18学級ぐらいの規模が、適正かなというのが総合的には感じます。

議長

いま、1学年につき3学級とか2学級と出てますが、単学級でも支障がないという考え方も、背景にありますよね。例えばそれは学力の問題とか集団行動とか、人間関係だとかいう事に関してはいろいろあるかもしれませんが、例えば単学級の4校合同で子どもたちの集会をしたら、個性的な発見をしたというようなこともありますから、いわゆる教育の展開の中で、人間の関係や育成の上でプラスになる面もあるでしょうから、そういうような形を取りながら単学級でも十分教育効果は上がっていくということもあるでしょう。そういうものも十分に踏まえたうえでのお話だったとお聞きしておりますので、これにこだわらないで私も了解はしていきたいと思いますが、そういうことも十分にあるということによろしいですね。それではE委員、いかがですか。

E 委員	<p>国が言ってる1校に12～18（学級）というのが正しいものだとは思いますが、一般論で言えば。でもそこに龍ヶ崎市の地域性というか歴史の部分を加味して、「1学級だから駄目だ」ということではなくて。理想は当然12～18が大部分はそうかなといえますけれども、だからといって今ある「長戸や大宮は足りないよね」と言ってすむような問題でもないというのが今のところの考えです。</p>
議長	<p>なるほど。C委員、いかがですか。</p>
C 委員	<p>なかなか難しいですよええ。</p>
議長	<p>いいですよ。ではB委員、いかがですか。</p>
B 委員	<p>目の前の3人の先生方がおっしゃるのはごもっともだと思います、私も。ただ、将来性を考えると、やはり最低でも1学年2クラスが必要じゃないかっていう気はするんですよ。市で作った資料を全部読んだわけじゃないですけど、子どもの数が減少していくことに照らし合わせて考えると、将来的には3クラスは無理だと思うんです。先生方が言う理想は私も分かりますよ。分かりますけどやはり現実に帰らないと、駄目だと思うんですよ。現実に帰って、一番理想のクラスはいくつにすればいいかということを考えていただいたほうがいいんじゃないかというふうに思いますね。ということで、私は2クラス。</p>
B 委員	<p>1クラスだとやはり、先ほども先生のほうから生徒のことを考えるしかないというお話がありましたけれども、生徒のことを考えると、学力でも1クラスと2クラスではやはり違うと思います。競争性が違うと思います。「こっちのクラスになったらこっちの成績になったけど、じゃ我々はこっちのクラスより成績を伸ばそうじゃないか」という競争心が、2クラスだと生まれてくるように思うんですよ。そういうのを考えると、1クラスよりか2クラス、最低でも2クラスですね。2クラスで確保していただいたほうが生徒にとっては、よりメリットがあると思います。市で作った（資料の）44ページの「児童生徒のメリット」にも書いてありますけど、メリットが多いですよ。デメリットもありますけどね、クラス替えだとか部活動が1クラスだとできなくなるとか、そういうのがありますけど、やはりメリットのほうが多いというふうに思います。</p>
議長	<p>今のB委員のお話は、第1回の審議会資料の45ページを参考にしてのご発言であります。A委員、いかがですか。</p>

A委員

適正規模、ということだけを考えれば、先生方が言った2クラスか3クラスが良いのかなとは思いますが、やはりそれだけでは進まない部分もあるし、子どもがちょっと言ったのを思い出したんですけど、初めて中学でクラス替えやったんですよ。そしたらね、やっぱり「クラス替えてドキドキした」なんてね、楽しさっていうよりもドキドキワクワクっていうか、そういうのをね、目を輝かせていったのを思い出しました。そういうことを考えるとやはり2クラス以上が良いのかなと、学力の面とかいろいろありますけどね。

ただ、そうだからと言って龍ヶ崎全体をそうしましょうということにもならないのかなとも思います。

議長

ありがとうございます。いまA委員から「龍ヶ崎市全体を考えた場合には、理想のクラスは設定されたとしても難しい問題があるだろうというような結論のお話がありまして、たぶんそうだろうなど。要は人口動態の問題と絡めて今後考えていくべき問題、あくまでも理想的なものはこうだけれど、現実というものとも整合性を示していかななくてはならない問題でございますので、それぞれの難しさもございます。そしてまた、結論的なことをここで申し上げるまでにはまだ至っておりませんので、次回には……（以下、事務局に向かって）次回の考えというか、次回の方向についてももしありましたらご指示をいただきたいんですが。

事務局

最初に適正規模を考えていただいて、それを基準として今度は配置をどうするか、というやり方がよいと思っております。その点お願いしてきたわけですが、結論は、いろいろあってやはり難しいのかなとも思いますので、その辺は適正配置のほうも含めて、次回論議がそこまで進展して、皆さんのお話の中でお任せしたいと思います。状況としては適正規模を先にある程度固めていただいたほうがよいかなと思っております。

議長

ありがとうございます。皆さんから、それぞれご意見いただきました。次回、また適正規模に戻りましてご発言いただく予定でありますので、この次には、いわゆる単学級・多学級などのメリットデメリットを含めてそれぞれのお考え、それから地域性や、郷土に住んでいる自分たちの町や村の問題を踏まえながらですね、「私としてはこういう考えを持っている」というものを出していただけたらありがたいなと思っております。ぜひそういう形でご出席いただければありがたいなと思っております。基本的なことについての意見が大体出揃ったのかなという考えをもちますので、何かこの後補足してご意見をいただけるのならばいただいて、もしなければこの会を終了させていただきたいなというように思いますが、事務局のほうでは支障ございませんか。

事務局

ありません。

議長

それでは委員の皆さんに再度申し上げます。何か特別に補足または考えを申し上げたいという方、ございましたらご発言をお願いいたします。

B 委員	皆さんが言った、市の人口動態。それがもし次回、推計で出るようであれば出していただきたいと思います。
議長	B 委員から今後の龍ヶ崎市の人口の問題について、何年ぐらい先まで出るのが分かりませんが、できる範囲内で、その資料を提出していただくということではよろしいですか。
B 委員	できれば地域別に出していただけると一番良いんですが。
事務局	人口の将来推計につきましては、色々な資料がございます。都市計画などではある程度期待度を込めて数値を出しているのもございますし、実数に近いような形の推計が良いと思います。実際に生まれている方までは正確なものを出せるんですが、我々独自に作るとなりますと、難しい状況です。
議長	それはいろいろと現実的な問題もあるでしょうから、それは事務局ののできるだけの物で結構だと思いますので、その中でいいですね。かえってそのことで後で混乱してもいいから、市の将来像というか現在置かれている市の子どもたちの状況の中で見ていくのが一番はっきりしているでしょうから、そういうものでも結構だと思いますので、できるだけ。
事務局	<p>すでに小中学校適正規模適正配置にかかる審議会を開催している自治体の児童生徒数の資料を見ますと、現年度までのものや当市と同様に6年後、つまり生まれている子どもまでの推計がほとんどであり、その他、長いところでは、10年先ぐらいまででございました。これは、数十年先までの推計になりますとその分、誤差が大きくなりますので、小中学校の適正規模適正配置については、実績値や数年先までのある程度正確なデータで検討を行っているのではないかと考えられます。また、当市の状況につきましてお話ししますと、現在、城ノ内方面を除いては、大きな宅地開発等の予定はございませんので、少子化傾向を踏まえまして長期間に亘る推計をいたしますと、多くの学校が小規模校になると考えられます。</p> <p>例えば、大宮小学校は、これまで分離校の新設や学区変更が行われておりませんので、少子化傾向がよく分かるものとなっておりますが、資料の51ページをご覧くださいますと昭和50年度の児童数が、321名でありましたが、平成27年度には130名程度になると予測されています。こうした少子化の状況を踏まえて、大宮小学校の長期間にわたる推計を行った場合には、平成28年度以降、その先10年後、20年後には、かなり小さな小学校になっていると考えられます。</p>

事務局

その一方で、現在、一番小さな学校となっております長戸小学校では、先週、来年度入学する子どもたちを対象に就学時健康診断を行ったわけでありましたが、推計どおり、来年度の新人児は、6名で、すべて男子児童となっております。すでに深刻な状況になっております。また、現在の児童数は、93名であります。長戸小学校区には、現在、宅地開発等の予定はなく、平成27年度には、50人代になると予想されています。さらに、長戸小学校区の高齢化率も他の小学校区に比べ高いものとなっております。どこまで将来推計をすることが良いのか難しい部分がございますが、こうした学校の現状をご理解いただいた上で、推計は、誤差の小さい平成27年度までが良いのではないかと考えまして資料を作成いたしましたことをご含みいただければと思います。

議長

分かりました。いま事務局がおっしゃったように、我々の答申の具体的なものは今のですね、将来像はもちろん必要ですけれども、現実出されているこの資料の中でですね、どうあるかということを考えることを第一義にしまして、いま各委員から出された、またC委員からも言われたように、人口の本市の将来についてはこれは予測しきれない問題もある。B委員も先ほどおっしゃってましたけれども、足立区で第1回の答申を出したと、それで第2回の答申を出さざるを得なかったというような現実を、B委員は経験もなさっておられますので、そう考えますと、本市の答申も現実出されているこの資料の中でどういうところが理想の適正規模適正配置なのかということにのみ、私ども委員としては焦点を合わせながら考えて参ると、というようなことで。B委員ね、人口の問題についてはそういうことのご苦労もあったように伺いますので、今あるはっきりしている中での小規模校、適正規模、大規模校の問題点も踏まえながら、本市としてはどのような方向がいいかなという意味の取りまとめをさせていただくということで、よろしいですか。

B委員
事務局

市のほうで、10年ぐらいのスパンで人口推計が出てませんか、統計か何か。総合計画とか、そういうものでは推計値というものは出しているんですが、当然、総合計画になりますと、ある程度市の施策で人を呼んだりする施策を今後とっていく。そうすると、今の自然な中だけではなくてそういった施策によって人を呼んだり、いろいろ改革をしてお子さんを多く生んでいただくとか、そういったもの込みで、いろいろ見込んで期待度も込めた数値を出しています。そういうものであれば、総合計画ではこうなってますという資料でしたら、お出しはできると思うんですが。

B委員
議長
事務局

別にかまいません、それで。
今あるものでね、新たに作るんじゃなくて出ているものの中でね。
そうすると学区ではなく地区割がちょっと違うかもしれませんが、今あるものでよろしいですか。

議長

完璧なものでなくていいですよ。あるもので。現状の中での適正規模適正配置ということでしょうか、将来はまたそれなりの、先ほどB委員がおっしゃったように足立区の先進的な、統廃合を含めた学区の編成状況などをお聞きいたしましたので、それなどを思えば本市の場合でもこの答申が1回でなくて、このあとまた新しい委員の中で作っていただくということも出てくるでしょうか、そういうような形で当面、この現状の中で本市のあり方というものをお考えいただくと、いうことで進めさせていただきたいと思います。よろしいですか。では、そういうことでお願いいたしたいと思います。ありがとうございました。

さて、いろんなご意見をいただきました。また、長時間にわたりご意見をいただいたわけではありますが、今日はこれで終了とさせていただきますがよろしいですか。それでは本日はどうもありがとうございました。次回は再度、適正規模、配置の方向まで踏まえて、ご意見がいただけるかとは思いますが、どうぞ、それぞれの思いをお伝えいただければと思います。本日はご苦労様でした。

平成21年12月24日

署名 塩幡 克三

署名 杉田 美代子
